

I 2022年度（第5期）の報告

1 協議会開催状況と協議事項

○第1回協議会 2022年5月15日

- ① 役員選出
- ② 放課後教室の冷房
放課後教室から要望があったが、教育委員会の意向で見送りとなった。
- ③ 新移住者への支援金
 - ・平井夫妻（飯塚・二拠点で半額7.5万円）、家主（5万円）、マッチング者（5万円）を支給。
 - ・宗像さん（米持に移住予定）支給予定。
- ④ 災害時非常訓練について
7月協議会開催時に実施し、参加者に日当1,000円を支給する。
参加者は協議会参加メンバー。
- ⑤ ソーラーシェアリング収穫祭
11月20日（日）実施予定。協議会も参加する。
- ⑥ 村づくり基金申請について
現時点で申請無。今後、基金の周知が必要。
 - ・活用方法への意見収集
豊和地区自主サークル等への助成、
豊和地区住民が参加する地区外へのサークル・団体への助成、
社協との連携等。

○第2回協議会 2022年7月24日

- ① 移住予定者、宗像さんへの助成未済。
飯塚米持に移住完了後、支給する。
- ② 映画「おだやかな革命」上映委員会への参加
地方活性化の取組を紹介した映画。協議会・村づくり基金の趣旨に合うので、参加し、費用助成の希望があれば検討する。
- ③ ゼロカーボン匠瑳推進協議会への参加について
匠瑳市が地域脱炭素の先行地域として取組をさらに推進できるよう、村づくり協議会もゼロカーボン匠瑳推進協議会に参加する。
- ④ 事務局体制強化
二拠点移住者（平井有希子）が8月より事務局の一部事務を担当する。（月額2万円）

- ⑤ 村づくり基金の活用について
予算規模 今年度 380 万、次年度以降 500 万程度となる。
・ 前回に引き続き、意見収集
地域の課題解決への活用等。継続審議とする。

○第3回協議会 2022年10月9日

- ① ソーラーシェアリング収穫祭
村づくり基金からは、終了後に収支の不足分を共催者と金額調整の上、拠出する。
- ② 映画「SAVE the Reef -Act Now-」上映への助成申請を承認
- ③ ゼロカーボン匠瑳推進協議会主催のセミナー&映画上映会への助成申請を承認
- ④ 災害時非常電源の活用について
本日訓練実施。訓練日当を支給(1,000円)。訓練参加者の名簿を作成。
今後、毎年訓練を実施していく。
- ⑤ 村づくり基金の活用について、継続審議。

○第4回協議会 2023年1月29日

- ① ゼロカーボン匠瑳&「おだやかな革命」上映会助成について
他の助成が得られず、助成金の増額申請(7万→15万円)あり、承認。
- ② ソーラーシェアリング収穫祭
1,000人を超える来場があり、盛況だったが、その分費用が膨らんだ。
基金から約50万拠出する。
- ③ 新一年生への助成金(お祝金)について
新一年生11名。2万円×11名=22万円を支給。

2 村づくり基金の主な使用状況

① 子ども教室助成金	162万円
② ソラシェア収穫祭協賛金	150万円
③ 小学校入学支援金(11人)	22万円
④ セーブザリーフ上映会助成金	4万円
⑤ 小学校米づくり体験助成金	3.5万円
⑥ 穏やか革命&セミナー助成金	15万円
⑦ 移住支援金(二拠点移住)	7.5万円
⑧ マッチング&空家提供者謝礼	10万円

3 村づくり基金の受け入れ状況

設備の事業者から拠出頂いた基金の金額は、以下のとおりです。「市民エネルギーちば」が設備を増やし、「有限会社 en」からの協力を得たことから総額で昨年より18万円増加しました。

○匝瑳ソーラーシェアリング合同会社	200万円
○市民エネルギーちば株式会社	90万円
○千葉エコ・エネルギー株式会社	30万円
○株式会社 イージーパワー	12万円
○株式会社 横浜環境デザイン	6万円
○YKD エナジー合同会社	6万円
○株式会社 市民ソーラー	6万円
○宮下さん（市民エネルギーちば役員）	6万円
○有限会社 en	6万円
○辻井さん（元パタゴニア日本支社長）	5万円
○SBI エナジー株式会社	4万円
合計金額	371万円

4 参加団体・個人と役員

1) 参加団体・個人は以下のとおりです。新たな参加者はありません。

飯塚開畑環境保全会、北総東部土地改良区飯塚分区、SOSAプロジェクト、豊和小学校、豊和小学校PTA、豊和保育所保護者会、飯塚区、大寺区、内山区、青少年相談員、豊葉会、農業委員、豊和地区社協、市民エネルギーちば株式会社、匝瑳ソーラーシェアリング合同会社、Three little birds 合同会社

2) 役員

代表	高坂 勝（SOSA PROJECT）
副代表	越川 秀幸（豊和地区社会福祉協議会） 向後 秀幸（飯塚区長）
会計監査	越智 雅紀（豊和地区青少年相談員）
事務局長	椿 茂雄（飯塚開畑環境保全会）

5 事務局体制の充実について

飯塚に移住（現時点では2拠点移住）してきた平井有希子さんに8月から事務局に入ってもらい、有償ボランティア（月額2万円）として事務のサポートをしてもらっています。こちらでの居住状況なども踏まえながら、事務局の機能を充実させていくこととします。

6 移住者、Uターン者に対する支援について

- 昨年創設した制度ですが、今期は、1名の移住者（ご夫婦・二拠点移住）に移住支援金として7万5000円を支給しました。
- 移住者と家主さんとのマッチングをした方と家主さんにはそれぞれ5万円の謝礼金を支払いました。
- リホーム費用の支援の申請はありませんでした。

7 「地域づくり事業起ち上げ基金」について

- 地域で必要となるサービスや事業であるにも関わらず起業が困難なサービスや事業の起ち上げを支援することで、住みやすい地域づくりと移住者の増加や定着につなげていくことを目的として、昨年創設した基金ですが、現時点まで活用（申請）はありません。
- 昨年4月に250万円で立ち上げた基金ですが、今期の「村づくり基金」の残金の2分の1を繰り入れることとしていることから来期は基金の金額は365万円になります。みなさんの活用を期待します。

8 ゼロカーボン匠瑛推進協議会への参加

世界的な脱炭素社会＝持続可能な社会の流れの中、日本は2050年脱炭素社会の実現を地方から実現することを目指しており、そのために2030年までに地方の100か所を「脱炭素先行地域」に指定し、そこに資源と人材を集中的に投入することとされています。具体的には、年間10億、5年間で50億円の助成金を出すことで、太陽光発電等の再生可能エネルギーの拡大や省エネ対策などによってCO2排出の実質ゼロを実現するというものです。同時に、こうした取り組みによって地域の課題を解決し、地域循環

経済を確立することで持続可能な地域社会づくりを目指すものです。

昨年3月に匝瑳市の「脱炭素先行地域」実現を目指して、事業者や銀行、商工会や市議員などの有志による「ゼロカーボン匝瑳推進協議会」が結成されたことから豊和村づくり協議会も参加しました。

市は、「脱炭素先行地域」の申請を2月に行っており、4月下旬、遅くとも連休明けには採択（指定）されるかどうかははっきりします。市の計画では、豊和地区も先行地域に入っており、採択（指定）されれば各家庭での再エネ設備（太陽光や蓄電池の設置）や省エネ改修などが助成対象となります。

<参考>

「村づくり基金」とは？

飯塚・開畑地区にあるソーラーシェアリング発電設備から地域のために出される資金で、①飯塚開畑地区の農地の保全や農業支援 ②豊和地区の環境保全と活性化 ③将来を担う子供たちの育成 ④地域のための活動への支援を目的としています。使用については、地域のみなさんの要望を踏まえて村づくり協議会で協議して決めています。

上記の趣旨に沿った取組みであれば、支援（助成金）の対象となりますので活用ください。

* 以下のような制度（支援金）もあります、

1 移住希望者と空家とのマッチング

- ① 村づくり協議会のホームページに空家を掲載してくれた場合の謝礼（3000円）
- ② 移住者と空家のマッチングが成功した場合、マッチングした方と家主に5万円の謝礼。

2 耕作放棄地の畑への復元費用の助成

豊和地区の方、若しくは豊和地区で農業を行っている方が豊和地区内の耕作放棄地を畑に戻して耕作を行う場合、復元費用を助成（1万円、又は1万5000円）します。但し、地権者が自らの農地を復元する場合は除きます。